



入間市教研

会報 No.58

発行 令和5年2月28日
発行者 入間市教育研究会
代表 会長 浅見 信治

ました。

十一月には三年ぶりに参集型で研究発表会を実施することができ、発表校にとつては、先生方に参観していただきましたことやりがいを感じることができました。また、参加した先生方にとっては、発表から多くのことを学ぶことができました。入間市の教育を推進するための大変な機会であつたと改めて実感しました。

コロナ禍と働き方改革をきっかけに、本研究会の活動も見直しが図られてきました。今までの慣例に捕らわれずに、本当に必要なものを残すという方向性ができてきました。アフターコロナを見据え、新たな教育研究会を形作る段階になってきています。皆様のご理解とご協力をいただきますようよろしくお願ひいたします。

令和四年度 夏季講演会
GIGAスクールのめざす子供の姿
Math Channel 代表 横山 明日希氏

ICTの考え方は三つの方向性があります。一つ目はICT機器の使い勝手、使える力を身に付けることです。二つ目は教科の指導をICTを通して、どのように深めていくか、そこを目指すことです。三つ目は情報活用能力を身に付けていくことです。

では、授業中のどのタイミングでICT機器を活用するのがよいのでしょうか。とりあえず導入でICT機器を使ってそれで終わりでも十分です。あとは、ベテランの先生方は普段使われている熟練の技を活用いただいて、そのあとの授業展開にもつていくのもよいでしょう。逆に展開のタイミングで、個別学習や協働学習、グループで話し合うタイミングで使うなど、そこだけで特化して

結びになりますが、入間市教育委員会教育長中田一平様をはじめ委員会の皆様、本会員の皆様、各校の先生方、そして各研究部長の先生方をはじめ多くの先生方に、本研究会の運営や事業に対しまして、多大なるご尽力をいただきまして心より感謝申し上げます。

トで解いた問題の答えをオクリングで送って、それを画面に映しながら、生徒に発表してもらう。これだけでも授業時間は五分くらい短縮できます。

ICT活用を向上させるためには、職員が実践しているんだという空気感を出すことがすごく大事です。「何となくいろいろやってみたけど、どれが一番いいかわからない」よりも、「これは授業をまとめるときに活用できるから、この事例はぜひ皆さんに見ていただきたい。他はまだ研究中だけど」の方が明らかに、次に進んでいく空気が生まれます。できないことに注目するよりは、できることに注目して、それを伸ばしていただきたいと思っています。

結局は子どもが主体となる話です。子どもがどういう状態になればいいのかという話です。そのためには、日々の子どもたちの学びが肯定されている状態、私たちはこれを学んでいることが正しいんだ、学び続けていいんだと思えるような環境を創ることが大事です。遊び続けるとは、子どもたちが自ら主体的に一歩ずつ前に進めている状態を創ることです。

令和4年度委嘱研究発表校

「学び伸びるかねこの子育成」

～一人一人に確かな生きる力を～

金子小学校

一 主題設定の理由

本校では、「学び伸びるかねこの子育成」～一人一人に確かな生きる力を～を主題として、「学力向上・徳力向上・体力向上」を目指し、授業研究を進めてきた。

日々の授業で、教師が「学びあい」を意識して教材研究を行った。また、研究授業後のワークショップでは、視点①「児童が主体的に学習するために」、視点②「児童が学びを広げ、深めるために」の2つに沿って議論し、より良い学習指導を目指してきた。

二 仮説

「各教科で学びあいを取り入れた授業を行うことで、児童が主体的に学習し、学びを広げ、深めるようになるだろう。」

- ① 視点が明確な学びあい
- ② 児童が楽しいと感じる授業展開（導入の工夫）
- ③ 意図的な視点をもつた評価
- ④ 金子スタンダード活用
- ⑤ 学



学びあい



ちょっとトーク（対話）

- 家庭学習に取り組む児童が増加した。週五日以上取り組める児童が約七割に増加した。
- ▲「学びあい」の授業を活発に行うため、「聴く」ことを意識した指導を低学年から系統立てて行う必要である。

三 手立て

「『発見』があり『技』を身につける授業」を実践すれば、「読む力を高め、自分の考えや思いを伝えられる児童」の育成ができるだろう。

三 手立て

- ①『聞く力』を育てる教育活動の整備
- ア 各種朝会活動の充実（お話し会、児童朝会等）
- イ まなびタイムの活用（音読、視写・伝え合いによるユーツト学習



学びあい



読みの技「年表作り」

「読む力を高め、自分の考え方や思いを伝えられる児童の育成」

～国語科の「読み」の授業を通して～

宮寺小学校

一 主題設定の理由

本校では、読解力を必要とする文章問題や長文読解において課題があつた。

そこで、国語科の授業を中心に読む力を向上させることで全ての教科の学力のさらなる向上につなげ、「自分の思いや考えを伝えられる」表現力も向上させようと考え、研究主題を「読む力を高め、自分の考え方や

思いを伝えられる児童の育成」国語科の「読み」の授業を通して」とし、児童の読解力の向上とともに教員の指導力の向上を目指して研究を進めた。

四 成果と課題

- ② 文章を正確に「読む力」を育てる国語科授業の展開
- ア 「発見」のある授業展開
- イ 文法事項（主語・述語・接続詞等）を押さえた活動
- ③ 語彙を増やし「伝える力」を育てる機会の保障
- ア 「学び合い」活動の充実
- イ 「振り返り」活動の工夫

○各教科で「学びあい」の授業を取り入れたことにより、主体的に学習に取り組める児童が増えた。

▲「学びあい」の授業を活発に行うため、「聴く」ことを意識した指導を低学年から系統立てて行う必要である。

二 仮説

「言語技術の向上とともに、「文学的な文章」を「味わう」教育活動を展開していきたい。」

○「発見」があり「技」を身につける授業」を実践すれば、「読む力を高め、自分の考え方や思いを伝えられる児童」の育成ができるだろう。

三 手立て

- ① 『聞く力』を育てる教育活動の整備
- ア 各種朝会活動の充実（お話し会、児童朝会等）
- イ まなびタイムの活用（音読、視写・伝え合いによるユーツト学習



学びあい



読みの技「年表作り」

「自分の考えをしつかりもち、 お互いに伝え合い深め合う児童の育成」

～各教科・領域の授業を通して～

仏子小学校



本校は、学校評価や埼玉県学力・学習状況調査の結果から、児童が主体的・能動的に学習に参加することを重点目標とした。そこで『自分の考えをしつかりもち』ながら、学習に対する主体的に取り組むこと、児童同士が関わり合いながら、『お互いに伝え合い深め合う』ことを目指して、授業改善を図ることを研究のテーマとした。

二 研究の仮説

問題解決型の学習を適切に展開すれば、自分の考えをしつかりもち、お互いに伝え合い深め合う児童を育成することができるであろう。

三 研究の取組

仮説を具現化する様々な手立てが出来され、それらを授業の流れに取り込んで各教科のスタンダードを確立することが必要であるという結論に至った。令和三年度は、各教科のスタンダード

一 主題設定の理由

本校は、学校評価や埼玉県学力・学習状況調査の結果から、児童が主体的・能動的に学習に参加することを重点目標とした。そこで『自分の考えをしつかりもち』ながら、学習に対する主体的に取り組むこと、児童同士が関わり合いながら、『お互いに伝え合い深め合う』ことを目指して、授業改善を図ることを研究のテーマとした。

四 成果と課題

スタンダードの定着を進めていった。



令和四年度は、教科を算数学級活動・体育に絞り、研究仮説の具現化に向けて

ド化を目指した。国語・算数・道徳・学活・社会を中心とした他校の先行研究を参考しながら、仏子小学校の児童の実態に合ったスタンダード作りを行った。

令和四年度は、

教科を算数学級活動・体育に絞り、研究仮説の具現化に向けて

タブレット導入により生徒が主体的・対話的に活動できる授業を目指す。「学び合い学習」の研究を進め十一年目を迎えたタブレットをどのように活用するか、「振り返り」をメタ認知に活かす研究を行つた。

二 研究の取組

本年度は、昨年度より研究グループを以下の三グループに分けて研究を進めた。

① 学び合い研究チーム

② メタ認知研究チーム

③ タブレット研究チーム



本年度は、昨年度より研究グループを以下の三グループに分けて研究を進めた。

① 学び合い研究チーム

② メタ認知研究チーム

③ タブレット研究チーム

すべての職員が三つのグループに分かれ研究を進めた。



【課題】

教員アンケートより、学び合い学習をより深いものにする「ジャンプ課題」の内容。タブレットを活用していく中で、判明した課題（人数、台数、タイミング）等の分析。タブレットのアプローチとの授業等への活かし方の検討など、今後も校内研修を進めていく。

「主体的・対話的で深い学びにより、 資質・能力を育む教育の実現」

～タブレットを活用した「学び合い学習」を通して～

豊岡中学校

一 主題設定の理由

本校では、新学習指導要領の完全実施、タブレット導入により生徒が主体的・対話的に活動できる授業を目指す。「学び合い学習」の研究を進めて十一年目を迎えたタブレットをどのように活用するか、「振り返り」をメタ認知に活かす研究を行つた。

本校では、新学習指導要領の完全実施、タブレット導入により生徒が

主体的・対話的に活動できる授業を

目指す。「学び合い学習」の研究を進めて十一年目を迎えたタブレットをど

のように活用するか、「振り返り」をメタ認知に活かす研究を行つた。

三 研究の成果と課題

【成果】

学び合い学習を通して、考えを深めたり、広げたりする力が定着している。

生徒アンケートより、タブレットを学習に用いることや「学び合い学習」の授業で活用することについての肯定的評価

が増えた。授業を土台とした、良好な人間関係の構築が着実に

進んでいる。

生徒の主体的な学びを育む指導法の工夫 ～タブレット端末の活用を通して～

上藤沢中学校

皆と協力しながら自分の思いを表現できる生徒の育成

東町中学校

一 主題設定の理由

本校の生徒は、落ち着いて学習することができるが、主体性にやや欠けるところがある。

タブレット端末をはじめとするICTを活用することで、主体的な学びを実現したいと考え、本研究主題を設定した。

二 研究の仮説

タブレット端末を中心として、ICT機器を効果的に活用した学習指導を工夫することで、生徒の主体的な学びを育成することができるであろう。

三 主な取組

- ①タブレット端末を効果的に活用した授業実践
- ・各教科でタブレット端末を効果的に活用した授業の工夫・改善
- ②講師を招いての研究授業
- ・東京工業大学名誉教授 赤堀侃司 先生
- ・マスチャーンネル社 横山明日希 様
- ・株式会社ベネッセ
- ・入間市教育委員会指導主事 様

（3）授業以外での活用実践

- ・学年集会（学期のまとめ、アンケート集計・グラフ化など）
- ・校外学習（調べ学習、事前学習のZoom配信など）
- ・生徒会活動（生徒総会、茶摘み事後指導、三年生を送る会など）
- ・部活動（活動の撮影、反省）



四 成果と課題

研究によりタブレットの活用が増え、生徒、教職員とともにICTスキルが向上した。授業に組み入れることで、「主体的、協働的な学びを引き出すツール」としてのタブレットの有用性を実感し、さらに活用が進んだ。

三 主な取組

- ①タブレット端末を効果的に活用した授業実践
- ・各教科でタブレット端末を効果的に活用した授業の工夫・改善
- ②講師を招いての研究授業
- ・東京工業大学名誉教授 赤堀侃司 先生
- ・マスチャーンネル社 横山明日希 様
- ・株式会社ベネッセ
- ・入間市教育委員会指導主事 様

一 主題設定の理由

本校の生徒の課題として①自己考えや意見を発表できない、②自分の良さに気付いていないという点が明らかになった。そこで、主体的・対話的で深い学びのある授業を研究し実践・追求していくことで、生徒ができる、わかるという実感がわき、自己肯定感が高まるとともに、自己表現力の育成につながると考え、研究の主題とした。

二 研究の仮説

主体的・対話的で深い学びの授業実践を追求していくば、自己肯定感が醸成され、自己表現力が育成されるであろう。

三 主な取組

- ①研究推進チームをつくり、より細かく研究を進めた。
- 1 授業研究チーム
 - ①フォーカス研究授業の実施
 - 研究授業を実践し、教師のスキルアップ及び授業実践力の向上を目指した。
 - ②効果的なICT機器の活用

四 成果と課題

タブレットを積極的に授業に取り入れ、効果的な実践を目指す取組を行った。

- ③一人一人研究授業の実践
- ②調査環境チーム
- 自己肯定感に関する調査の実施。
- ③表現向上チーム

- ①「コグトレ」の実施
- ②タブレットのプレゼンテーションソフトを利用した発表
- ③生活ノートの見直し
- ④ノーメディアワークの取組

- 学び合い学習の実践により、生徒が自分の意見を積極的に発言できるようになり、自らの学びを深めることができた。
- ICT機器を積極的に取り入れることで、生徒同士の意見交換や教師側とのやりとりがスムーズに行われるようになった。
- 実践結果を検証し、学校全体で取り組める活動を展開していくことが課題である。

令和四年度研究委嘱校（一）

『人間関係作りを通して
体力を高める』

児童の育成

東町小学校

一 主題設定の理由

本校では、長引くコロナ禍により、子供たちどうしで関わる活動が制限された。そのため、体力面、人間関係面の両方で大きく弊害が起ころういる背景から、体育科を通じて解消できないかと考え、主題の設定に至った。

二 研究の取組

研究の仮説としてのキーワードである、「魅力的な活動」と「意図的なかんむき合い」をテーマに、各学年、各ブロックが児童の実態と照らし合わせ、授業実践を行った。

三 次年度へ向けて

本研究では、学年、ブロックの授業研究と並行し、『授業研究部』と『体育的諸活動部』の二つの部会を組織している。授業実践やアンケート等を通じて、より主題に適った環境整備や、体育科のスタンダードを作成し、本発表に向け、より質の高い授業が行えるように取り組んでいく。

『児童が互いに認め合い、のびのびと自「表現できる」

学級と学びの土台づくり

（国語科の学習を通して）

高倉小学校

一 主題設定の理由

令和三年度に実施された県学力状況調査において国語に課題が見られ、特に記述式において苦手な児童が多いという実態が見られた。そこで国語科の研究を通して授業改善を図り、児童の国語力を高めていくため、本主題を設定した。

二 研究の取組

他校の授業研究会に積極的に参加し、情報の共有を行った。学んだことを授業において実践した。

また、「一人」授業に取り組み、ブロック毎で授業を見合い教師の学び合いを通して授業改善に努めた。

三 次年度へ向けて

スタンダード部・おもしろ国語部の各部会から出た成果と課題をもとに、児童の実態に合わせた授業を行い、児童の国語力を高め、国語好きな児童の育成を図る。

『豊かな心をもち、よりよく生きようとする児童の育成』

（「対話」を通して考え方を深める道徳科の授業の工夫）

藤沢南小学校

一 主題設定の理由

「豊かな心」を、全教育活動を通してどのように育成するのかを考えた。その中で「特別の教科 道徳」を研究の柱とし、児童の実態等から本年度の重点項目を設定し取り組むこととした。

二 研究の取組

「豊かな心」の育成を教育活動全体でとらえた図を全学年が作成した。

日々の授業充実のために、全教員が研究授業を行い、指導力向上を図つた。昨年度の研究を整理し、①道徳的価値の明確化②思考ツール③児童の発言に対する教師の問い合わせ④振り返りの四点を研究の視点として設定し、研究協議を重ねた。

三 次年度へ向けて

今後は、課題の言葉の選び方や学び合いの話題の設定の仕方、学び合い後の練り上げの仕方を工夫し、児童が主体的に取り組める授業になるよう研究を深めていく。

『人もとりいぼさず、だれもがわかるできる授業づくり』

（国語科「読むこと」領域の指導を通して）新久小学校

一 主題設定の理由

本校の児童は、学力調査の結果等から学力に課題があり、児童の学力差も大きいことがわかった。また、個別支援を必要としている児童も多い。

そこで、全児童がわかるできる授業づくりを目指して、教員のさらなる授業力向上を図りたいと考え本研究主題とした。

二 研究の取組

国語のその単元で学ばせたい重点事項を一つにしぼって、授業の焦点化を行い、児童がわかる授業を目指した。

また、授業内で学び合いを取り入れ、全児童が授業に参加できるよう工夫した。さらに、毎回の授業の振り返りを、児童の学びの変容を見るだけではなく、教師が自分の授業を振り返るためにも活用し、授業改善を図った。

三 次年度へ向けて

『主体的に学ぶ生徒の育成』

藤沢中学校

主体性とは考え方や行動が他の人から見ても正しいと判断される性質と考えている。そのためには、生徒自らが「やりたいこと」を探す過程で、より自己を高めていくことが大切である。本校では、三つの研究部を組織し研究を進めてきた。

授業研究部

- ① 授業における「主体的」な活動場面の共通理解
- ② 授業づくり五原則に基づく一人
- ③ 協働的な学習を支えるための学習形態の提案

特別活動研究部

- ① 「やりたいこと探し」の実施
- ② 生徒会活動による校則の見直し

総合的な学習研究部

- ① 新聞記事学習
- ② 進路学習におけるタブレットの活用
- 現在、主体性を見る調査で、約八割の生徒が「主体性があると思う」と回答した。
- 今後も、全校一致の体制の基で研究に取り組んでいきたい。

『様々な教育活動におけるICTの活用』野田中学校

学校経営

研究部研究の成果

国語

GIGAスクール構想の推進によ

り、学校のICT環境も大きく変化した。「働き方改革」もさわがれようになってきた今年度は、授業だけでなく、校務にも目を向け

ICT機器の活用について探求した。

二 研究の取組

研究の柱を二つ設定して、以下の内容に取り組んだ。

柱一 「授業」での活用

- ① ミラクルシードの活用
- ② Zoomの活用
- ③ デジタル教科書の活用
- ④ 日報・週報・月報のデジタル化

柱二 「校務」での活用

- ⑤ 職員資料のペーパーレス化
- ⑥ 校内各階への連絡黒板（大型TV+タブレット）の設置

三 次年度へ向けて

- 授業でICTの活用を進めることで、入間市が取り組む「学び合い」にもつながると考える。引き続き、模索し続けていく。また、校務での活用については、歩み出したばかりだが、

今後も、歩み出しつづける。引き続き、模索していく。

今後も、全校一致の体制の基で研究に取り組んでいきたい。



校長部会では、「学び、学校経営に資する校長会」、教頭部会では「学校運営の改善・充実に資する連携・協働の教頭会」をテーマに教育の推進に努めてきた。校長研修会では、情報交換や意見交換及び学校経営力の向上に向けての実践発表、委嘱研究発表校視察を実施した。

二月の校長研修会では「働き方改革推進の現状と校長の役割」、一月の教頭研修会では「コミュニティースクールが始まる」「教頭は、これからの中学校と地域づくりにどう関わっていくべきか」を考える「それぞれテーマとして発表をし、市教育委員会の皆様にご指導いただいた」。

オ nline で 参加させていただくという初めての試みで、声が聞き取りづらかったり、映像が見えづらかったりと改善点も見られたが、コロナ禍で、なかなか他の学校の国語の授業を見る機会がなくなっていた中、今年度の授業研究は有意義なものとなつた。

中学校では、武藏中学校にて、昨年度中止になってしまったタブレットの活用についての研究授業、研究協議を行つた。

今年度は、授業担当校のご協力もあり、充実した研修を行うことができた。

来年度以降も、コロナ禍の中でも充実した活動が行えるよう国語部の活動に取り組んでいきたい。

今後も、全校一致の体制の基で研

小学校では、授業担当校である新久小学校での校内研修に、オンラインで国語研究部も参加させていただいた。研究協議では、「学び合い」「授業の振り返り」の二つの視点からグループ協議を行つた。オンラインで参観させていただいた内容についての感想をまとめ、後日各校で共有した。

算数・数学

算数・数学研究部では、四月に各小・中学校で入間地区算数・数学学力調査を行った。その後、集計を行い、八月に入間地区算数・数学学力調査報告会に参加した。会場参加者を制限し、Z o o mと併用して行われた。十月には、東町小学校を会場に「入間市算数・数学授業研究会」で四年生の授業研究が行われた。また、一月に、「飯能・日高・入間三市合同算数・数学研修会」で、県立総合センターからZ o o mを利用して配信された研修会に参加した。これらの報告会・研究会・研修会を行うことで、各小・中学校の授業改善を目指していきたい。

特別活動

今年度も新型コロナウイルスの影響が続いており、特別活動部が例年の八月に行っている児童生徒交換会や十一月に行っている授業研究会を行なうことができなかつた。二三年間を通じて右記のような活動を行うことができていないので、Z o o mなどのアプリを積極的に活用し、来年

度への活動に繋げていきたい。実際に行なうことができた活動は、各学校からのレポート提出をしてもらつた。各学校の児童会や生徒会の活動をレポート提出してもらい情報の共有を行つた。レポート内容は、「～学校が来るのが楽しくなるような取り組み（コロナ禍の中でもできるもの）～」をスローガンとして、そのスローガンに沿つた児童会活動、生徒会活動を試行錯誤しながら一年間通して行つてもらつた。来年度では、今年度の各学校の活動を参考にしてもらい、各学校がより良い児童会活動、生徒会活動となるようにしてもらいたい。

保健主事

保健主事部では、今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、例年同様に研修を進めることが難しく、夏季休業中の視察研修会を見送つた。

そこで、学校あるいは校区ごとに保健主任（部会）と協力して新型コロナウイルスに関する感染防止対策を講じたり、不登校児童生徒への対応等について研修に取り組んだりした。

二月には、保健主任部との合同研修会を予定している。昨年度は、「養

護教諭による不登校児童生徒と保護者への支援の実際」の演題で、開善教育研究所所長藤崎育子先生による合同講演会を実施した。今年度も藤崎先生にご指導いただき、さ

教育心理・教育相談

西部地区夏季研修会では、「子どもの神経発達からみた児童生徒理解と授業改善」というテーマで、所沢市特別支援教育スーパーバイザーの坂本條樹先生にご講演をいただいた。様々な機能が新生児・幼児・乳児の時期を経てどのように発達するのか、また発達を促進させるルーツとなる

給食指導班では、日々の給食時間内で指導ができるような、各月の旬の食材にかかる指導媒体物を作成した。また、指導案作成班では、担当者の学校で実施している食に関する指導についての指導案を、統一した様式に基づき作成した。その後は、各班で何度か作成したものを持ち寄り、意見交換しながら完成させた。

学校栄養

学校栄養研究部では、例年各学校で使用できるような掲示用媒体の作成を行つてきた。今年度は内容を少し変更し、給食指導班と指導案作成班の二つの班に分かれ研修を実施した。

給食指導班では、日々の給食時間内で指導ができるような、各月の旬の食材にかかる指導媒体物を作成した。また、指導案作成班では、担当者の学校で実施している食に関する指導についての指導案を、統一した様式に基づき作成した。その後は、各班で何度か作成したものを持ち寄り、意見交換しながら完成させた。完成した給食指導用の媒体物と指導案については、市内の栄養士が在籍する小中学校ですぐに活用できるようデータ化し、共有した。

への参加は、各市代表のみとなつたが、講演の様子を研究会のホームページにおいて、y o u t u b e で講演の様子が公開され、全部員が、各校で見ることができるようになった。今後も、学校間の情報交換などを大切にしつつ、子どもと向き合えるよう、有意義な研修を行つていきたい。

今後も食に関する指導の充実を図るために、学校栄養研究部で情報共有し、あいながら、研修を深めていきたい。

安全教育

本研究部では、「生徒が自ら安全を確保することができる基礎的な資質・能力を継続的に育成する」ことを目標として、これまで研修を進めってきた。ここ数年は、新型コロナウィルスの影響により、活動自体が思うように実施できていないことが多かったが、その分各校での安全管理、安全教育の充実推進に努めてきた。

今年度は、夏季に入間地区の授業研究会にむけての意見交換を行うとともに、各校で実施されている安全教育について持ち寄り、情報交換をする予定であったが、授業研究会が中止になったことや、そして新型コロナウイルス感染者拡大に伴い、中止することとなつた。

次年度からは、ここ数年実施できていなかつた入間地区の授業研究会を含め、入間地区の活動も再開される予定とのことで、入間地区安全教育研究会と情報を共有すると共に、地域一丸となって児童生徒の安

全意識向上に向け、研修を重ねていきたい。

学校事務

学校事務研究部では、例年、四月に研究協議兼顔合わせ、夏に実務研修等、三月に年度末の人事異動に関する事務処理の情報共有・共通認識の為の研修を行っている。

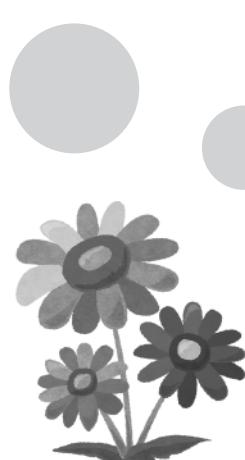
本年度については、市内会員に調査をしたところ、講師を招聘しての研修というよりも、普段目にすることが少ない他校の事務職員のデスクをはじめ、書類の管理方法、細やかな各校独自の工夫・職員室の様子等について知ることを目標に、情報に十分配慮しながら各校の事務処理・様子の写真を公開することを試みた。

写真公開に関してはまだ過渡期ではあるが、少しずつ、普段目にするところが少なかつた各校ならではの工夫を市内で共有することができており、各々の事務処理能力の向上や職員室の環境改善に役立てられるよう、事務部の活動を進めることができている。

総合的な学習

例年、四月に顔合わせや事業計画立案、夏季研修会では校外学習や学習内容設定の参考となる施設見学、二月に実践報告・情報交換会を行っている。今年度も昨年度に続き、感染症対策や参加人数の関係で夏季の施設見学を実施せず、年間指導計画等の情報共有を行うことで、各校

がコロナ禍で総合的な学習をどのように進めているのかを知り、今後の活動計画の参考になつた。一月の研修では、総合的な学習の時間でのタブレットを用いた授業の実践紹介を行い、各校のタブレット使用時の工夫や実践例などを取りまとめ、情報共有を行つた。また、今年度共有した年間指導計画や実践例の取りまとめ資料をしっかりと保存し、出し合つて行うためにはどうすればよいかなど意見交換を行つた。学校間で内容項目や取り組み方に多少の差があり、中学校へのつながりをよりスマートに行うためにはどうすればよいかなどを研修ができた。



進路・キャリア

た意見や課題を踏まえ、次年度以降の活動をさらに充実したものにしていきたい。

総合的な学習

例年、四月に顔合わせや事業計画立案、夏季研修会では校外学習や学習内容設定の参考となる施設見学、二月に実践報告・情報交換会を行っている。今年度も昨年度に続き、感染症対策や参加人数の関係で夏季の施設見学を実施せず、年間指導計画等の情報共有を行うことで、各校

がコロナ禍で総合的な学習をどのように進めているのかを知り、今後の活動計画の参考になつた。一月の研修では、総合的な学習の時間でのタブレットを用いた授業の実践紹介を行い、各校のタブレット使用時の工夫や実践例などを取りまとめ、情報共有を行つた。また、今年度共有した年間指導計画や実践例の取りまとめ資料をしっかりと保存し、出し合つて行うためにはどうすればよいかなどを意見交換を行つた。学校間で内容項目や取り組み方に多少の差があり、中学校へのつながりをよりスマートに行うためにはどうすればよいかなどを研修ができた。

中学校では、主に三年生での進路指導と進路事務の研修を深めた。この数年のコロナ禍対策で、出願方法や日程など大きく変化している現状を報告し、書類の記載内容や記載方法で共通理解を深め、学校間で差が出ないよう、細かいところまで話し合いを行つた。課題として、コロナ禍での体験的なキャリア教育のあり方が挙げられた。

来年度もこの研修を継続し、教員の資質向上に努めていきたい。